

雑司ヶ谷幹線再構築工事事故 経過報告

1 概要

- 発生日時 平成20年8月5日(火) 午前11時40分頃
- 発生場所 豊島区雑司ヶ谷2丁目2番付近
- 工事概要 雑司ヶ谷幹線再構築工事(管きよ更生工事)
幹線 □2,000×1,460mm、延長=約600m
請負者 (株)竹中土木

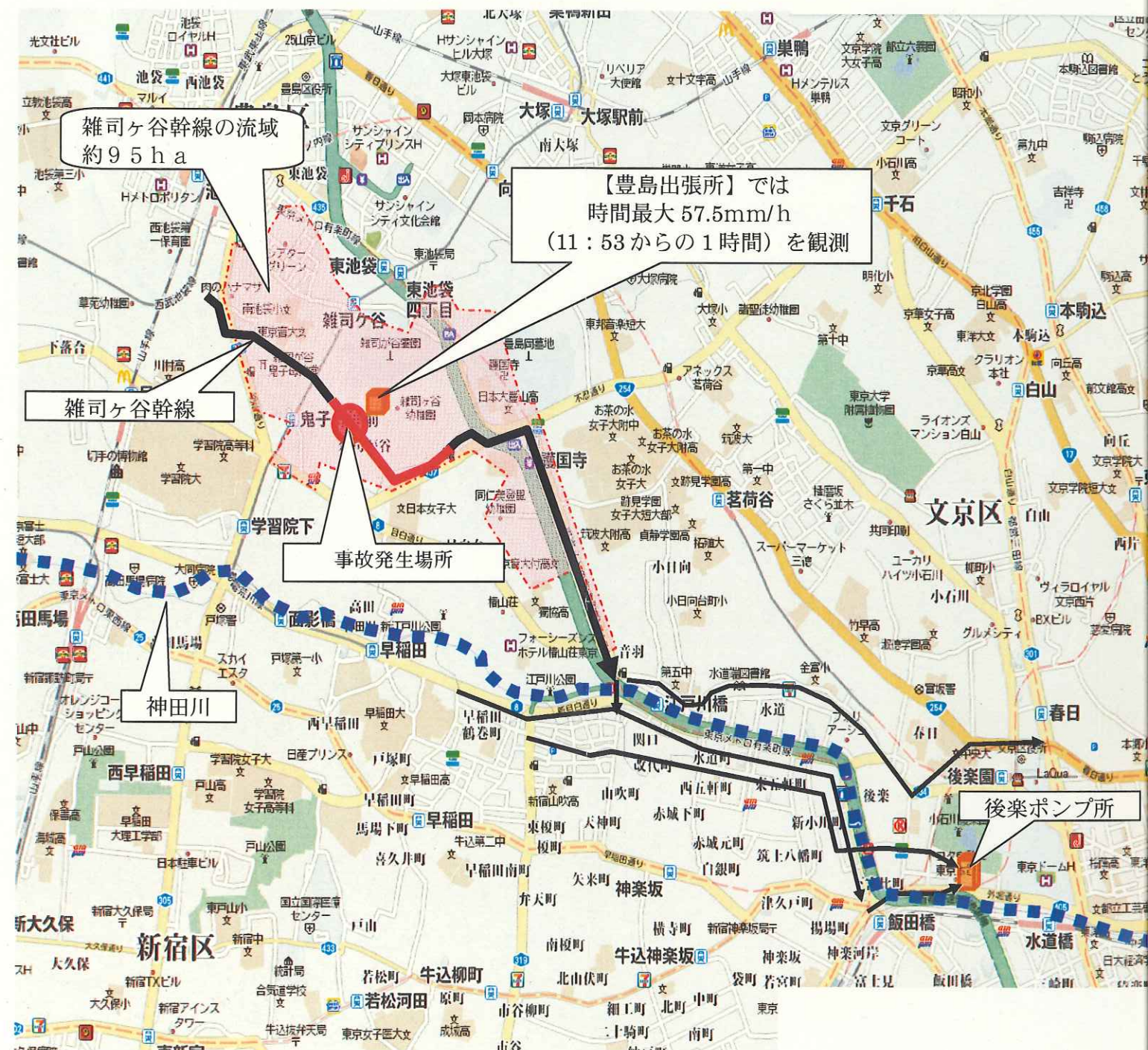
○ 事故状況

- ・ 9:30 作業開始
- ・ 現地では、事故直前、雨が降り始め、数分のうちに雨足が強まり、現場代理人が退避を指示
- ・ 当該幹線の上流域における突発的、局所的な集中豪雨により、幹線内の水位が短時間で急激に上昇
- ・ 管きよ内で作業中の作業員6名が下流に流され、うち1名は脱出したが残り5名の死亡を確認

2 事故発生後の対応

- 8月5日「雑司ヶ谷幹線再構築工事事故調査委員会」を、ただちに設置
第1回「事故調査委員会」の開催(17時00分～)
 - ・ 検討事項
 - ① 事故原因の究明
 - ② 事故の再発防止策の検討
 - ・ メンバー
技監を委員長に本庁部長及び事務所長など10名で構成
- 8月6日 臨時所長会の開催(8時30分～)
全ての地下工事に対し、以下のことを指示徹底
 - ・ 降雨時の安全管理について安全総点検を実施する
 - ・ 事故調査委員会により事故原因等の結論がでるまで、一滴でも雨が降れば、工事は中止する
 - ・ 作業の再開に当たっては、上流域の降雨状況、管内の水位等を確認のうえ、実施すること
- 8月中に調査委員会報告を取りまとめ、対応策を実施

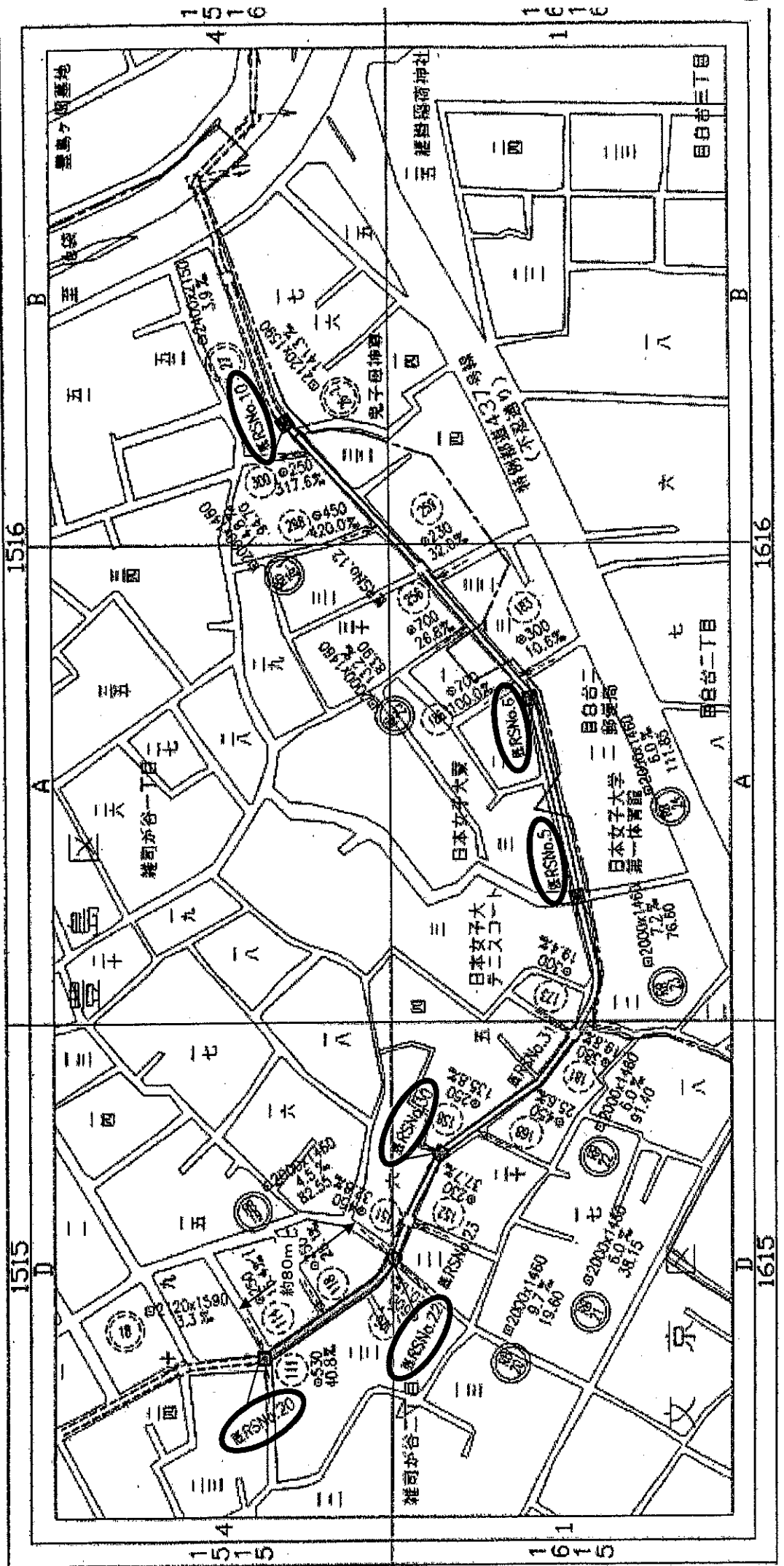
～関連施設位置図～



(参考)

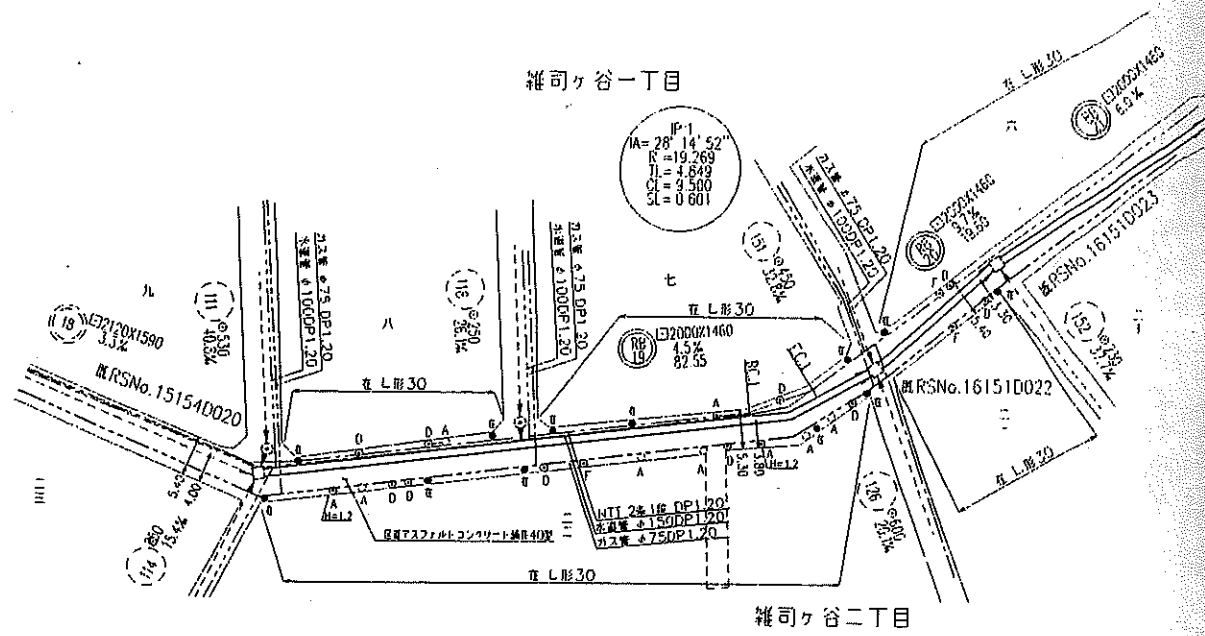
11:35 23区大雨・洪水注意報発令
12:33 23区大雨・洪水警報発令

系統図

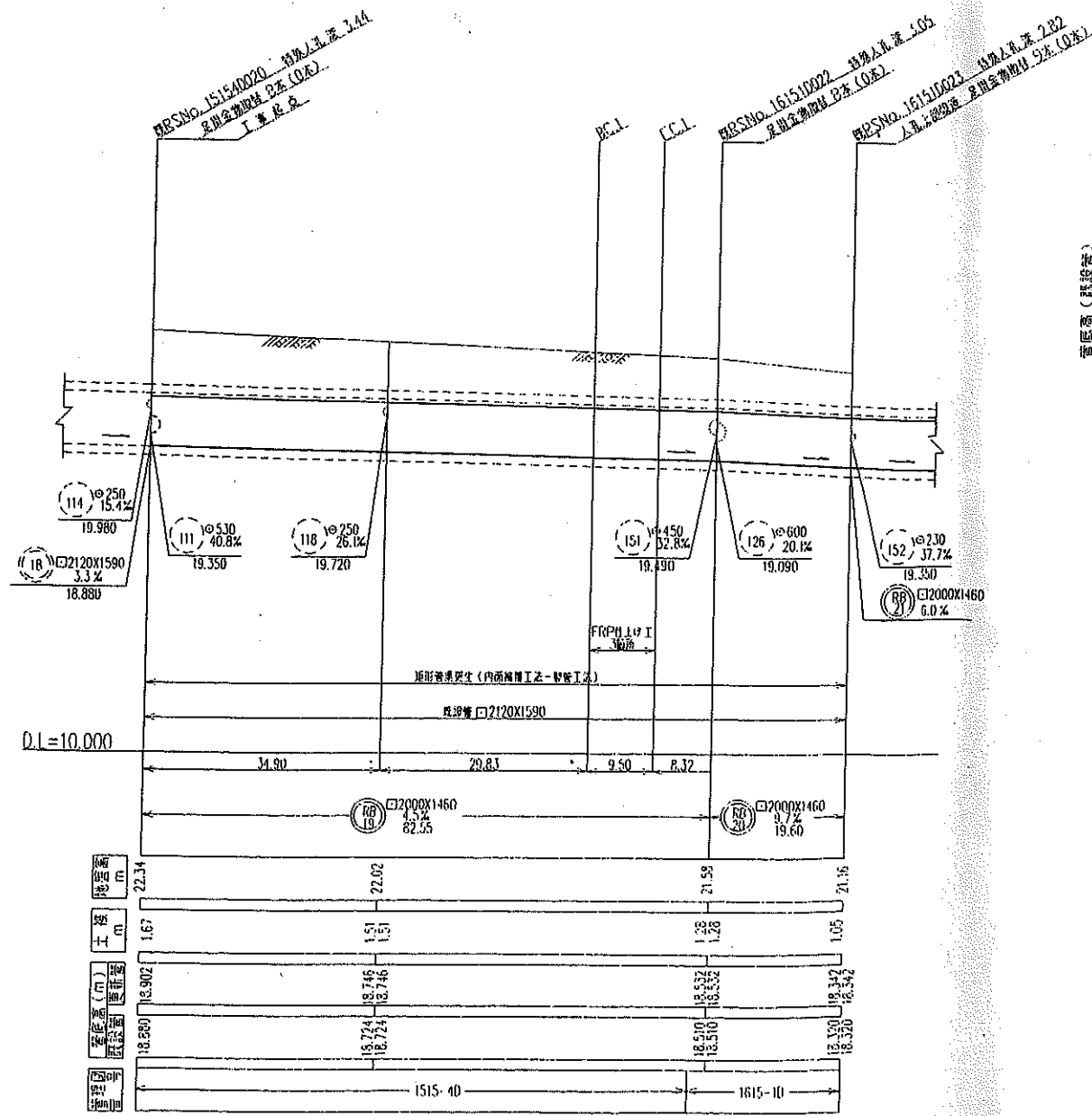


平面図 縮尺 1:500

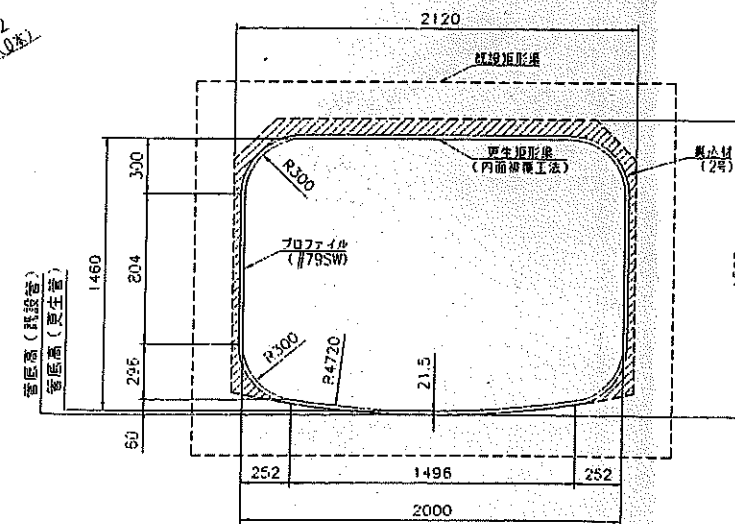
豊島区



縦断面図 縮尺 1:500

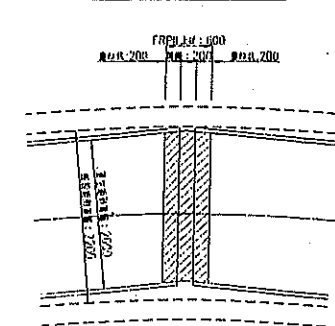


更生管標準断面図 縮尺 1:20

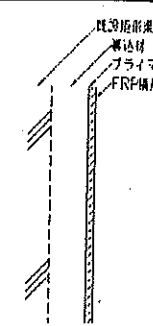


FRP仕上げ工図 (一箇所当たり)

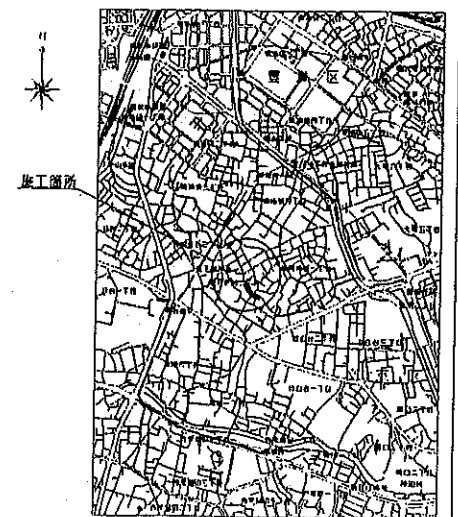
平面図 縮尺 1:50



FRP仕上げ工詳細図



案内図



汚水ます及び取付管数量表

汚水ます種別	取付管種別	内径	長さ	数量
汚水ます撤去	L形30	H=0.8m	11	個
汚水ます新設	小型	H=1.2m	2	個
		H=0.8m	14	個
取付管撤去	内径150	H=1.2m	2	m
		H=0.8m	38.10	m
取付管新設	内径150		38.10	m

東京都下水道 19 設計番号 A103 図面番号 2 5 工事名 雑司ヶ谷幹線再構築工事 図

アメッシュ拡大画像



2008年8月5日 11時00分



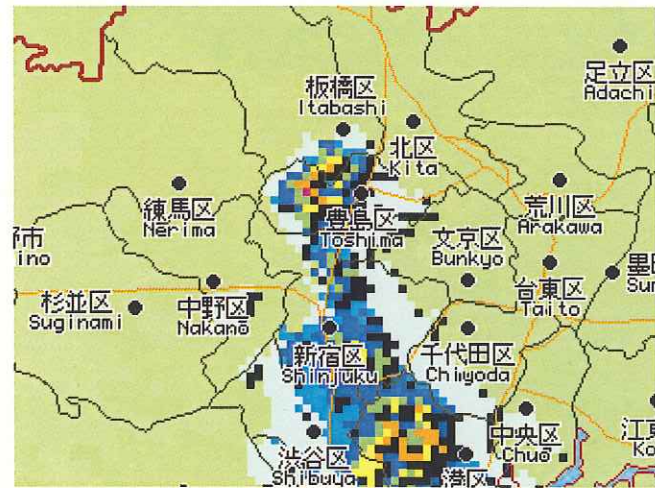
2008年8月5日 11時10分



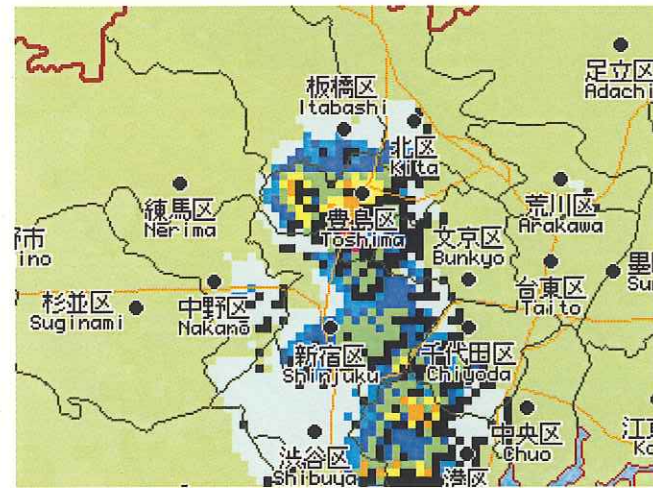
2008年8月5日 11時20分



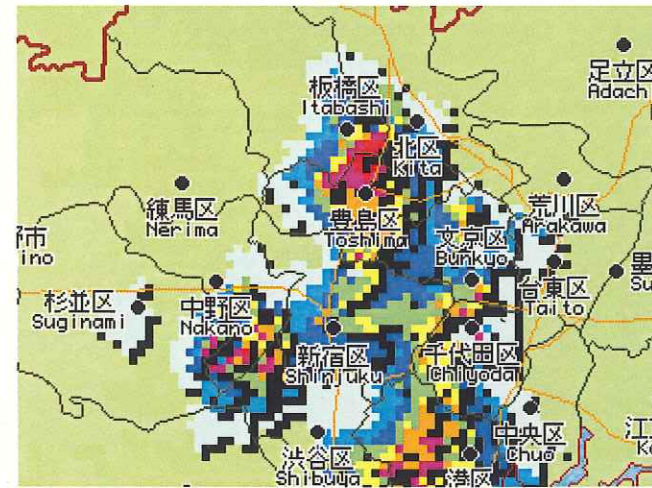
2008年8月5日 11時30分



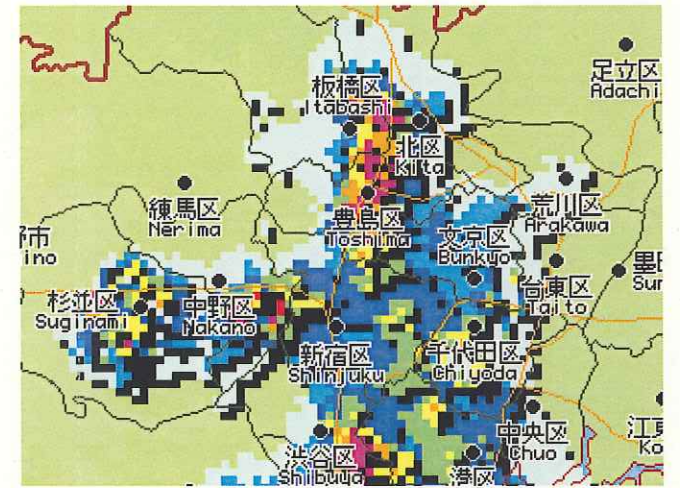
2008年8月5日 11時40分



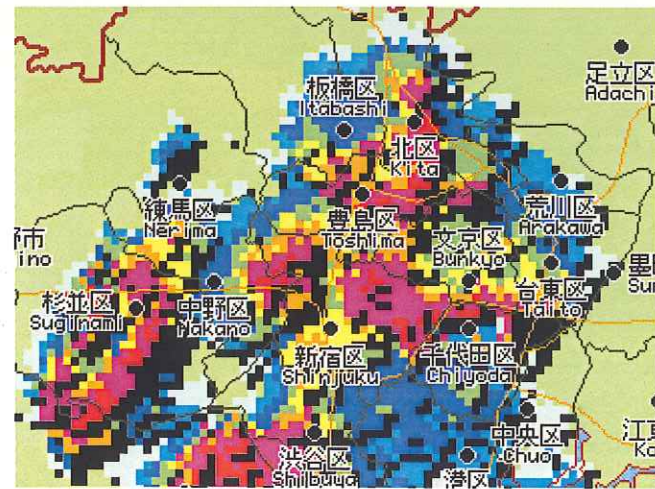
2008年8月5日 11時50分



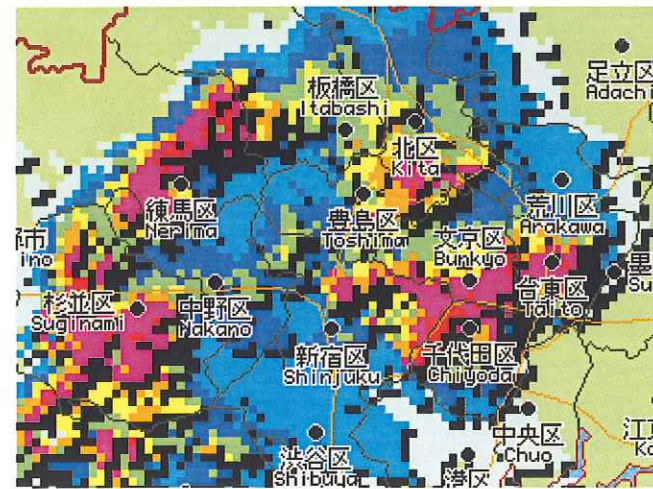
2008年8月5日 12時00分



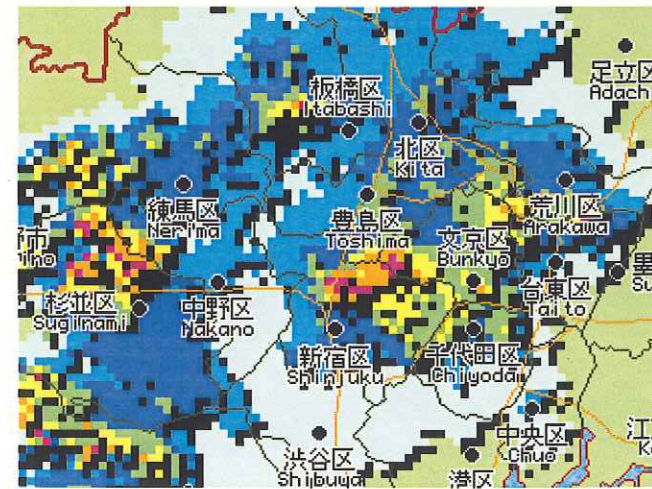
2008年8月5日 12時10分



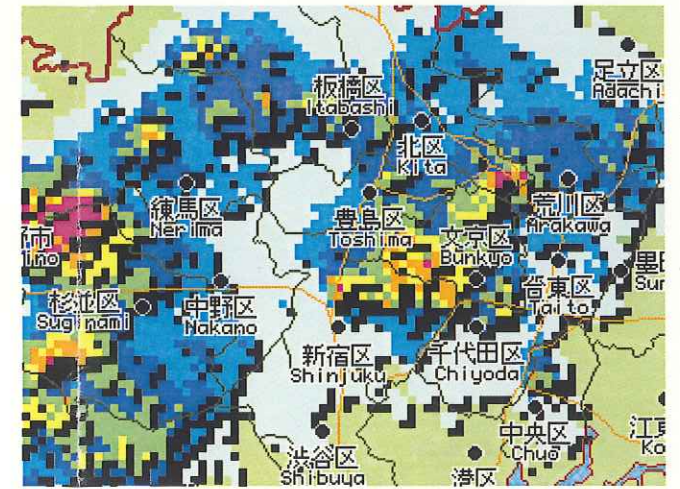
2008年8月5日 12時20分



2008年8月5日 12時30分



2008年8月5日 12時40分



2008年8月5日 12時50分

- (1) 埋蔵文化財の調査及び発掘の遅延又は新たな埋蔵文化財の発見により工事の続行が不適當又は不可能となった場合
- (2) 関連する他の工事の進捗が遅れたため工事の続行を不適當と認めた場合
- (3) 工事着手後、環境問題等の発生により工事の続行が不適當又は不可能となった場合

2. 当局は、請負者が契約図書に違反し又は監督員の指示に従わない場合等、監督員が必要と認めたときには、工事の中止内容を請負者に通知し、工事の全部又は一部の施工について一時中止をすることができる。

3. 請負者は、1. 又は2. の場合において、施工を一時中止する場合は、次の各号に掲げる内容を記載した中止期間中の維持・管理に関する計画書を当局に提出し、承諾を得るものとする。

また、請負者は工事の続行に備え工事現場を保全しなければならない。

- (1) 中止時点における工事の出来形、職員の体制、労務者数、搬入材料及び建設機械器具等の確認に関すること。
- (2) 中止に伴う工事現場の体制の縮小と再開に関すること及び工事現場の維持・管理に関する基本的事項を明らかにしたもの。
- (3) 中止した工事現場の管理責任は請負者に属するものとし、請負者は、基本計画書においてこの旨を明記すること。

1. 1. 10
警報発令時の
工事中止

請負者は、当該施工箇所に係る気象区域に、大雨、洪水、暴風警報が発令された場合には、直ちに全ての工事を中止し、必要な対応を図らなければならない。

なお、これにより発生した費用の増加については、当局は費用負担を行わない。

1. 1. 11
契約解除権の
行使に伴う措
置

請負者は、契約書第45条(乙の解除権)第1項の規定に基づき工事請負契約書を解除する場合は、保安措置、地元住民及び関係機関との調整等に必要な相当期間をおいてから行わなければならない。

1. 1. 12
工期変更

1. 契約書第14条(支給材料、貸与品及び発生品)第7項、第16条(設計図書不適合の場合の改造義務及び破壊検査等)第1項、第17条第5項、第18条(設計図書の変更)、第19条第3項、第20条(乙の請求による工期の

4 安全管理

4-1 基本方針

- (1) 安全管理に関する特記仕様書に基づき、当該施工箇所に係わる気象区域に、大雨、洪水、暴風警報が発令された場合には、直ちに全ての工事を中止し、管渠内に流下阻害となる物がないか、現場内外に飛来する物がないか等の点検結果、及び処置内容を実施した上で、担当監督員に報告致します。
- (2) 震度3以上の地震が発生した場合は、安全が確認され次第、現場を点検し、必要な措置を行うとともに、点検結果及び措置内容を担当監督員に報告致します。

4-2 安全管理施工フローチャート

